Technology & Service

大晃設備株式会社

2024年度　環境経営レポート

（対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日）

エコアクション21
認証番号0001417

作成日：　2025年5月23日

目　　次

項　　目	ページ
あいさつ	2
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7～12
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	13
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	15

□ごあいさつ

代表取締役社長

高橋　孝治

この環境経営レポートは『エコアクション２１』による当社の環境への取組みをご報告すると共に、地球にやさしい事業活動を推進することがお客様と当社の従業員及び協力会社社員の幸せをともに考えるきっかけになればという思いで作成し、展開しております。

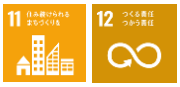
環境経営方針

我々は、あらゆる活動が地球環境と深く関わっていることを認識し、我々の事業活動であるガス導管、ガス住設機器、空調・衛生設備の設計施工及び機器販売を通じて環境との調和を図りつつ以下の項目に取り組み、持続可能な循環型社会の実現に向けて継続的に環境活動の改善を行うことを誓約します。

環境保全への行動指針

1．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

2．創意工夫による省エネルギー等により二酸化炭素排出量の削減に努めます。



3．廃棄物排出量の削減、建設副産物のリサイクル率の向上に努めます。

4．適正な利用により水使用量の削減に努めます。

5．有害化学物質使用料の削減および適正管理に努めます。

6．グリーン購入（エコ事務用品）の推進に努めます。

7．環境に配慮した工事、環境配慮製品の拡販、サービスの向上に努めます。

8．自然災害発生時の対応および対策整備に努めます。

9．地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

10．人材採用や人材育成、キャリアプランの設計等により人員数の最適化に努めます。

2019年　4月1日　制定

2024年2月15日　改定

大晃設備株式会社

代表取締役社長　　高　橋　孝　治

更新日：　2024年12月26日

組織の概要

（1） 名称及び代表者名

大晃設備株式会社

代表取締役社長　高橋 孝治

（2） 所在地

本　　社　　大阪市鶴見区今津南3丁目4番32号

（3） 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	専務取締役　林 隆照	TEL：06-6180-4447
担当者	事務局	TEL：06-6180-4445

（4） 事業内容

ガス設備・空気調和・衛生設備の設計及び施工

（5） 事業の規模

売上高　306,627 万円

	本　　社
従業員　名	94 名
延べ床面積　㎡	3632.18 ㎡

（6） 事業年度　4月1日　～　3月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：　大晃設備株式会社

対象事業所：　本　　社

対象外：　なし

活　動：　ガス設備・空気調和・衛生設備の設計及び施工

□事業の紹介

ガス工事：　高度な知識と技術を持つガスのプロフェッショナルが最適な工事を提案。
高品質で美しいTIG溶接にも対応しております。

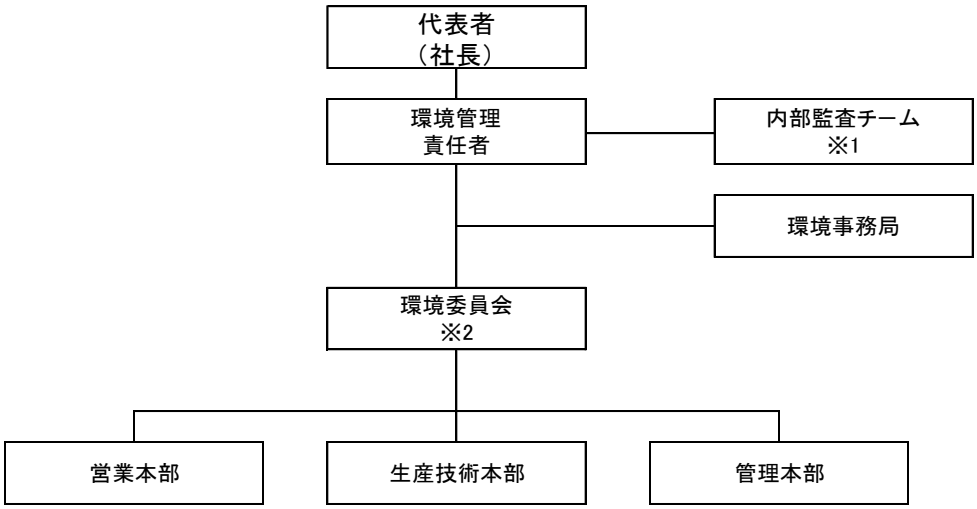
ガス住宅設備工事：　省エネで環境にやさしく、経済性も高い「エネファーム」など、最新ガス機器の提案・販売、施工までを一貫して行います。

ガス空調工事：　省エネ性・クリーン性に優れ、地球環境保全にも貢献するガス空調設備。
新築からリニューアルまで幅広く対応します。

給排水衛生設備工事：　冷暖房空調システムから給排水衛生設備まで、さまざまな設備工事のニーズに応え建設設備をトータルでサポートします。

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：　　2022年3月1日



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境委員会　※2	・環境経営計画の審議
	・環境活動実績の確認・評価
	※2　各部門長及び事務局員を構成メンバーとする。
部門長	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
	・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
	・試行・訓練を実施、記録の作成
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム　※1	・環境に関する内部監査の計画
	・環境に関する内部監査の実施・報告
	※1　従業員数95人超で検討会開催、100人以上で内部監査実施。
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

※基準年度　　※今期

項　目	単位	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
二酸化炭素総排出量　※	kg-CO_2	259,060	259,100	250,167	241,218	210,246	205,507	
廃棄物排出量		138,304	121,026	156,971	102,168	149,267	81,786	
一般廃棄物排出量	kg	33,834	22,784	24,071	13,778	12,537	11,486	未実施
産業廃棄物排出量	kg	104,470	98,242	132,900	88,390	136,730	70,300	
水使用量	㎥	2,122	2,128	2,173	1,144	981	953	

※ 三ヶ年計画（2023年～2024年）および基準年での電力・都市ガス・ガソリン・軽油の排出係数は以下の通り。

【電力】　大阪瓦斯：0.403kg-CO2/kWh、関西電力：0.418kg-CO2/kWhを使用。

ー平成30年度実績 ーR2.1.7公表　　調整後排出係数使用。

【都市ガス】　2.16kg-CO2/m3を使用。（温室効果ガス総排出量　算定方法ガイドラインＶｅｒ.1.0より）

【ガソリン・軽油】　ガソリン：2.32kg-CO2/L・軽油2.58kg-CO2/Lを使用。（温室効果ガス総排出量　算定方法ガイドラインＶｅｒ.1.0より）

環境経営目標及びその実績

※基準年度　　※今期

年度 / 項目		2019年 (実績)	2020年 (実績)	2021年 (実績)	2022年 (実績)	2023年 (実績)	2024年 評価	2024年 (目標)	2024年 (実績)	2025年 (目標)
『二酸化炭素排出量の削減』										
① 電力による	kg-CO2	52,008	50,840	51,903	39,669	36,675	○	39,272	38,901	39,074
二酸化炭素削減	基準年度比	-	-	-	-	8.2%		-1.0%	-5.7%	-1.5%
② 都市ガスによる	kg-CO2	35,746	36,558	37,560	25,160	21,613	○	24,908	23,179	24,783
二酸化炭素削減	基準年度比	-	-	-	-	16.4%		-1.0%	-6.8%	-1.5%
③ 自動車燃費による	kg-CO2	171,306	171,702	160,704	176,389	151,959	○	174,625	143,427	173,743
二酸化炭素削減	基準年度比	-	-	-	-	16.1%		-1.0%	5.9%	-1.5%
④ 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	259,060	259,100	250,167	241,218	210,246	○	238,806	205,507	
『廃棄物排出量の削減』										
① 一般廃棄物の削減	kg	33,834	22,784	24,071	13,778	12,537	○	13,640	11,486	13,571
（排出量）	基準年度比	-	-	-	-	9.9%		-1.0%	9.2%	-1.5%
② 廃プラの削減	kg	3,170.5	2,765.3	4,682.3	1,282.5	2,622.4	○	1,269.7	1,164.4	1,263.3
（処分量）	基準年度比	-	-	-	-	-51.1%		-1.0%	125.2%	-1.5%
『水使用量の削減』										
水使用量削減	㎥	2,122	2,128	2,173	1,144	981	○	1,133	953	1,127
	基準年度比	-	-	-	-	16.6%		-1.0%	2.9%	-1.5%
『化学物質購入量の削減』										
溶剤購入量削減・適正管理	kg	4,958	7,581	7,706	6,258	4,115	○	6,195	5,563	6,164
	基準年度比	-	-	-	-	52.1%		-1.0%	-26.0%	-1.5%
『グリーン購入の推進』										
グリーン購入（エコ事務	%	80.1%	89.9%	86.6%	84.2%	93.1%	×	84.2%	94.7%	84.2%
用品購入）の推進	基準年度比	-	-	-	-	-9.5%		100.0%	-1.7%	100.0%
『環境に配慮した工事、環境配慮製品の拡販、それに伴うサービスの向上』										
環境配慮製品の拡販	台	184	202	211	287	216	×	184	184	184
	基準年度比	-	-	-	-	32.9%		100.0%	17.4%	100.0%
『環境に配慮した工事、環境配慮製品の拡販、それに伴うサービスの向上』										
行動目標（次項による）										

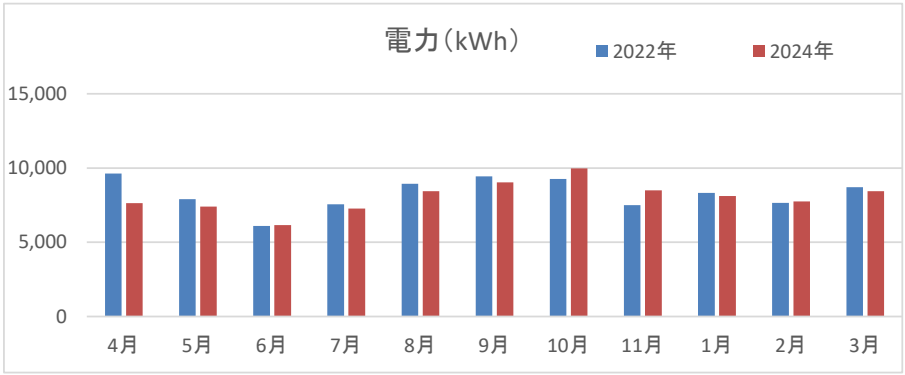
環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：〇達成　×未達成

活動：◎よくできた　〇：できた　△あまりできなかった　×全くできなかった

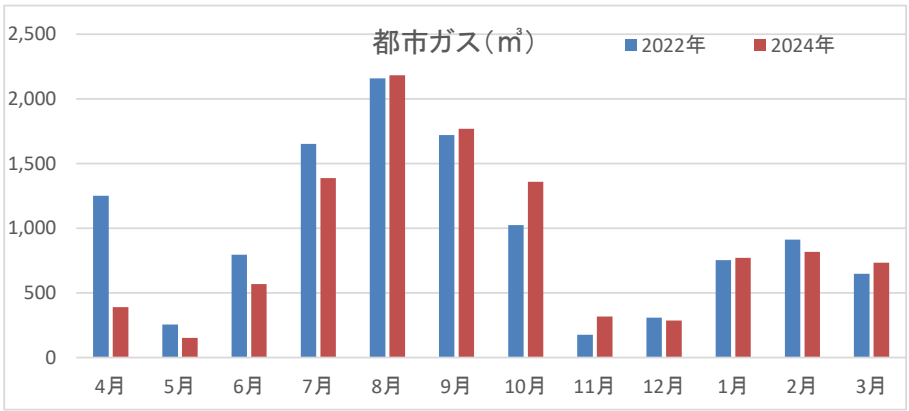
■ 二酸化炭素排出量の削減

① 電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	〇	2022年（基準年度）対比、および2024年度目標対比においても使用電力は削減され、目標達成となった。
・不要照明の消灯	〇	
・昼食時の消灯	〇	
・離席時のパソコン電源ＯＦＦ	△	
・働き方改革の実施	〇	



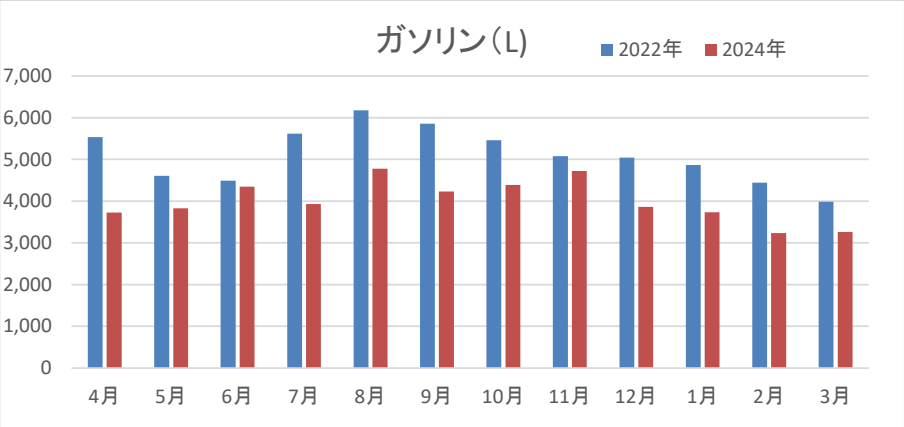
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	9,633	7,907	6,101	7,560	8,937	9,443	9,257	7,502	7,412	8,322	7,646	8,714
2024年	7,641	7,407	6,147	7,265	8,447	9,037	9,982	8,488	7,812	8,108	7,751	8,444

② 都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	〇	2022年（基準年度）対比、および2024年度目標対比においてもガス使用量は削減され、目標達成となった。
・出湯適量（必要量）を守る	〇	
・保温ポット等の利用	〇	
・ガス空調機の利用時間・温度設定	〇	
・ガス空調機の定期点検	〇	

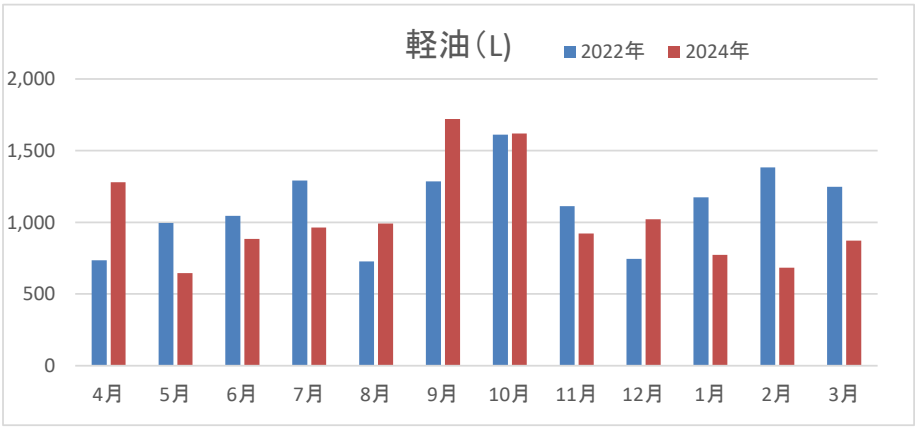


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1,250	255	795	1,651	2,158	1,720	1,024	175	308	753	912	647
2024年	389	151	568	1,387	2,183	1,768	1,359	318	287	770	817	734

③ 自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	直行直帰の推奨などが奏功しガソリン車、軽油車ともども目標達成となった。
・エコドライブの推奨	○	
・効率的なルートでの運行推奨	△	
・相乗り、相積の奨励	×	
・燃費を意識した自動車の採択	○	



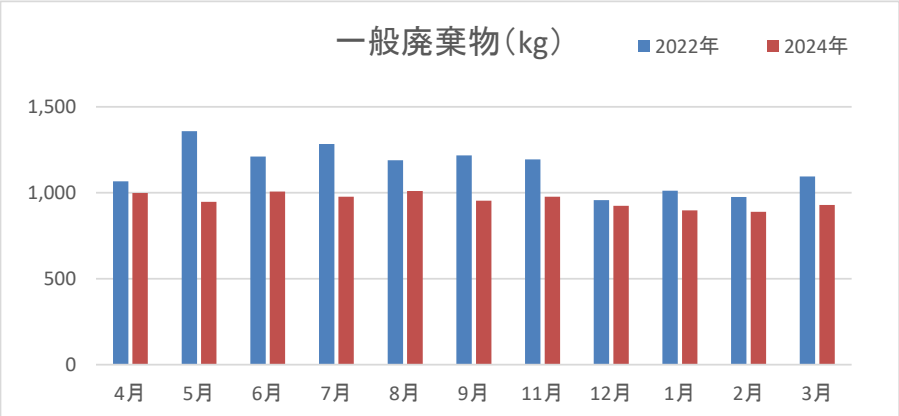
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	5,535	4,609	4,493	5,615	6,177	5,856	5,463	5,081	5,045	4,866	4,445	3,984
2024年	3,727	3,831	4,350	3,929	4,775	4,234	4,388	4,721	3,862	3,736	3,238	3,263



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	736	996	1,046	1,291	728	1,287	1,612	1,114	746	1,175	1,384	1,248
2024年	1,279	646	884	964	992	1,721	1,620	922	1,022	774	684	873

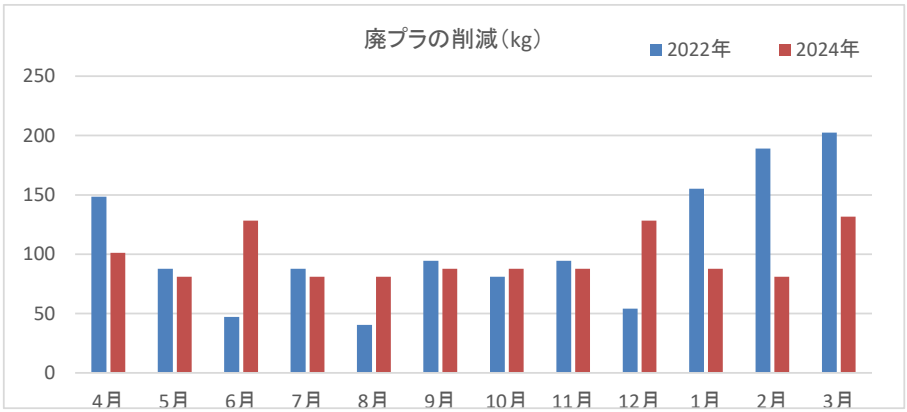
『廃棄物排出量の削減』

① 一般廃棄物の削減（排出量）	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	ゴミ削減の意識向上から排出量が削減し目標達成となった。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・梱包材の再利用	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1,066	1,359	1,211	1,284	1,190	1,217	1,218	1,195	957	1,012	976	1,095
2024年	998	947	1,007	978	1,010	955	977	977	924	898	889	929

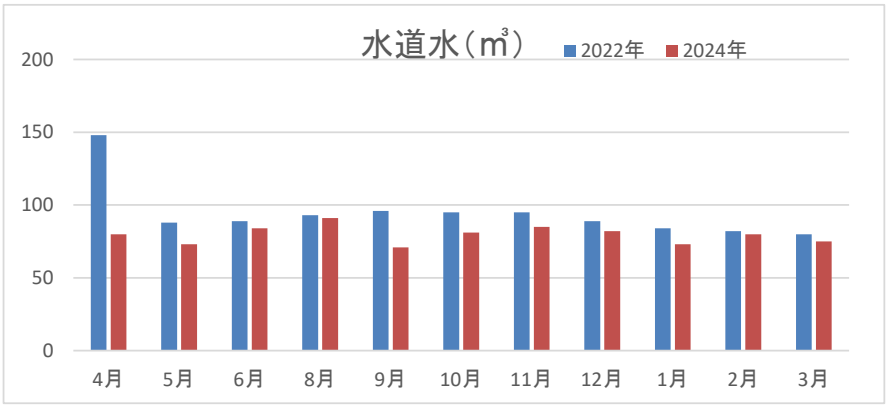
② 廃プラの削減（処分量）	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	一般廃棄物同様、目標達成となった。
・分別の徹底	△	
・作業ミスによる廃棄量の削減	△	
・素材別ボックスの設置	△	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	149	88	47	88	41	95	81	95	54	155	189	203
2024年	101	81	128	81	81	88	88	88	128	88	81	132

『水使用量の削減』

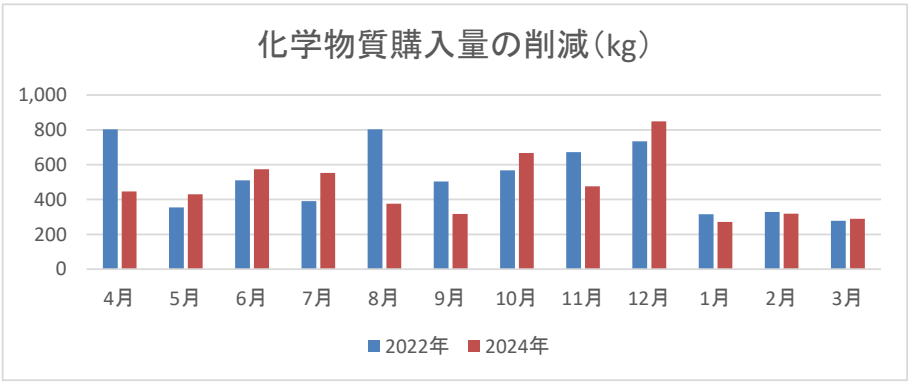
水使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	移転後の自動水栓機能が節水につながり目標達成となった。
・節水シール貼付とポスター掲示	×	
・漏水確認の実施	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	148	88	89	105	93	96	95	95	89	84	82	80
2024年	80	73	84	78	91	71	81	85	82	73	80	75

『化学物質購入量の削減』

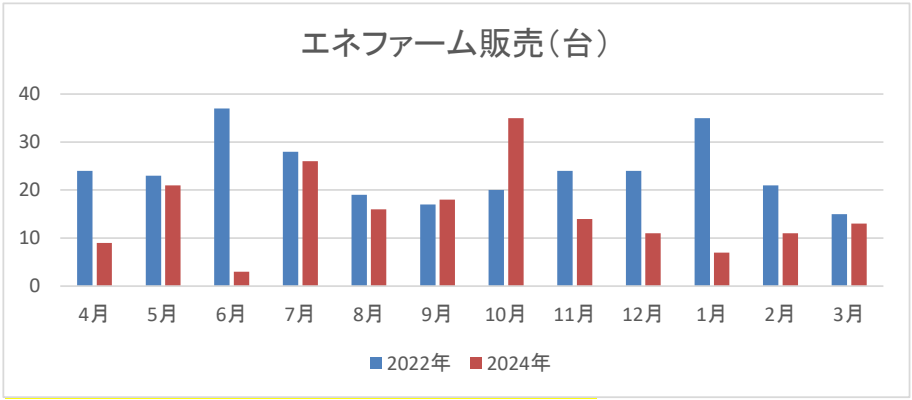
溶剤購入量削減（あるいは適正管理）	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	基準年度対比、今期目標対比ともども目標達成となった。物件により購入量は左右されるが、適切な仕入れ量を見極めて、不要な購入を抑制することで、今後も目標達成に資する。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	
・発注量の適正化	○	
・在庫管理による不良在庫の削減	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	802	354	510	390	803	503	567	672	734	316	329	278
2024年	446	430	573	552	376	317	667	475	849	270	318	289

『環境に配慮した工事、環境配慮製品の拡販、それに伴うサービスの向上』

環境配慮製品の拡販	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	第2四半期の販売量増加が奏功し、目標対比では達成という結果となった。基準年度対比は未達となったが、基準年度の販売量が過去最大である点が影響したものである。
・省エネ機器の採用	○	
・環境配慮製品の販売促進 （エネファーム）	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	24	23	37	28	19	17	20	24	24	35	21	15
2024年	9	21	3	26	16	18	35	14	11	7	11	13

『自然災害発生時の対応および対策整備』

自然災害発生時の対応および対策整備	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	-	防災訓練は滞りなく実施。しかし緊急工事時に対応可能な人材の確保については、人件費の問題もあり積極採用とまではいかない状況であった。
・防災訓練および点検実施	○	
・緊急工事時に対応できる人材の確保	×	
・ガス発電機導入への提案	○	

※エネファームは家庭用ガス発電装置であり発電時の熱を給湯にも使うコージェネレーションシステムである。また緊急事態で発電した際に家庭内に電気を供給するというレジリエンス機能が注目されている。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
化学物質排出把握管理促進法	施工工程で使用する化学製品の管理
労働安全衛生法	使用・保管する化学製品のリスクアセスメントの実施・周知
	作業結果の記録（事前調査等の実施・記録・保存・掲示）
廃棄物処理法	産業廃棄物・一般廃棄物の処理の適正委託、マニュフェスト管理、委託状況の報告、適正保管管理。
フロン排出抑制法	業務用空調機の点検、記録、保存。
騒音規制法	作業に伴う騒音の抑制（規制値内）
振動規制法	作業に伴う振動の抑制（規制値内）
大気汚染防止法	作業結果の記録（事前調査等の実施・記録・保存・掲示）
水質汚濁防止法	事故時の措置（オイル流失時の報告）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去１５年間ありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定	
■実施日　2024年11月26日	■実施場所　本社
■参加者 ①社員全員	■実施内容 ①避難訓練（火災時）
■評価：	手順書の変更の必要性　□ あり　☑ なし

屋外避難→避難確認にて15分程度を想定していたが、事前の準備に不備があり当初より時間がかかった。訓練の役割分担にも課題が残ったため、教訓として次年度に活かす。

■実施状況の様子

鶴見消防局立会いの元、訓練を実施。屋外への避難訓練ならびに水消火器による消火訓練を実施。

近隣への事前通知を実施した事もあり、火災報知器の鳴動による騒音等近隣からのご意見も特段無し。

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2025年3月31日

【前回の指示への取組結果】

1.新三ヶ年計画の制定
新社屋移転初年度の2022年を基準年度として新三ヶ年計画を立案し実施運用を行う。

今回実施した取組　① 移転初年度の実績を考慮し、現状に則した目標値を設定。
② 廃棄物量を現状受注に合わせた目標値の設定。

＜情　報＞		＜見直し・指示＞
◇自社を取り巻く環境問題の変化 ・世界規模の環境課題である地球温暖化に対する取組（2030年には温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減、2050年にはカーボンニュートラルの実現）。 今後のエネルギー政策の変化への対応		◇環境経営方針 ・本社移転後も環境経営方針は変わらず継続
◇環境目標・活動計画の達成状況 ・ 未達事項はなし	⇨	◇環境目標・活動計画 本社移転統廃合後の2022年度を基準年度とした三ヶ年計画2年目にあたるが、全9項目全てにおいて目標達成となった。以降も継続して環境負荷軽減への意識を醸成し成果に繋げる。
◇その他（実施体制含む） ・ 環境関連法規制等は遵守されています。 ・ 関連機関、近隣からの違反等の指摘、訴訟等はありませんでした。		◇その他（実施体制含む） ・ 法令遵守、近隣クレーム無しを継続して実施すること。

【今回の評価結果と今後の経営視点】

本年度は本社移転統廃合後の2022年度を基準年度とした三ヶ年計画の2年目にあたるが、全9項目全てにおいて目標達成となった。本社移転統廃合による設備面の恩恵とあわせて、社員の環境配慮への意識も年々向上しており、次年度も引き続き目標達成に資する。

これまでの環境活動の紹介

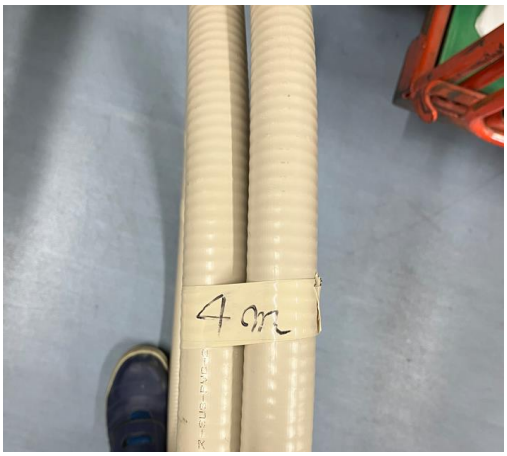
＜会社周辺地域の美化活動＞

大晃設備株式会社では各営業所で週3回、周辺清掃等の美化活動を行い地域環境の保全に積極的に取り組んでいる。

＜環境配慮工事について＞

1. 各種配管の残管の活用促進

鋼管・フレキシブルパイプ・PE管・樹脂管等使用後の残管は、残りの延長を明示し、後工事に使用しやすくする事で、材料ロスを最小限にする。



2. 低騒音型の小型発電機や小型建設機械（ユンボ等）の採用